

「酪農の魅力」～私が成長できた共進会～

岩手県立盛岡農業高等学校
動物科学科 3年 橘 美咲

北緯40度「ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」葛巻町。我が家は自然豊かなこの町で酪農を営んでいます。「丈夫な牛、長持ちする牛づくり」を目標に父や母は365日一生懸命働いています。現在の経営規模は、経産牛30頭、未經産牛15頭に加え、飼料畑10.5haでデントコーンと牧草を栽培しています。牧草は収量や家畜の栄養バランスを考えオーチャード、チモシー、クローバーの3種類を混播しています。

幼い頃から牛舎で遊んだり、手伝いをしていたため私にとって牛は身近な存在であり酪農への興味は人一倍ありました。父や母が一生懸命働く姿を見て育った私は父や母の後を継ぎ酪農経営をしたいという夢をもっていました。毎日朝から夜遅くまで牛の世話をして休む暇もなく働いている父や母を見て、最初のうちは尊敬していましたが、物心がつき始めた頃、嫌だなど思うようになっていきました。家族で外出しても牛舎の時間までには帰って来なければいけないし、夜に分娩があったら一晩中起きてなければならぬし、重労働だし、一時は酪農以外の仕事をしたいと思うようになりました。

中学3年生になり、進路を悩んでいた私に父は盛岡農業高校をすすめました。盛岡農業高校は父の母校でもあり、たくさん話をしてくれました。その他にも一緒に作業している時に牛に関することや我が家の経営なども話してくれました。作業しながら父の話を聞くのがとても楽しくなり、徐々に「酪農って素晴らしい仕事だな、自分も父のような経営者になりたい」と強く思うようになりました。それをきっかけに私はまた酪農の道に進もうと決心しました。

そして、岩手県立盛岡農業高校の動物科学科へ進学しました。高校へ入学して半年が過ぎた頃、北海道で行われる全道共進会がある事を知りました。先輩からも話を聞き更に興味が湧き、父と母を説得し見学に行くことができました。会場に入ると、綺麗に毛刈りされた牛たちがリードマンに引かれ優雅に歩いていました。その光景を見て私は見とれてしまいました。「自分の手で良い牛を育て、共進会でリードしたい!」この時から共進会に興味が出てきました。

共進会に牛を出すためには牛洗いや調教、毛刈りなどをしなければいけません。何一つ知らなかった私は先輩や先生から牛洗いや調教、毛刈りの仕方を教えてもらいました。牛洗いや調教は毎日の積み重ねが大切だということを知ったので、2年生になってから朝や放課後、休日は時間のある時は必ず牛舎に行き牛洗いや調教をして牛とコミュニケーションを取りました。最初のうちは牛を捕まえようとしても人に慣れていない牛は逃げ回ってばかりで全然捕まえられませんでした。何回もくじけそうになりましたが、「絶対自分でこの牛たちを

調教して共進会に出す」そう思いながら冬も頑張りました。ブラッシングをしたり体をなでてあげたりして恐怖心をあたえないようにしました。それでも、なかなか歩いてくれない牛やちょっとした音にも驚き突然走り出す神経質な牛など、いろいろな性格をもった牛を調教するのは思っていた以上に大変でした。牛に走られて引きづられたり、蹴られたり、突かれたり、牛を調教するようになってからあざが増えました。毎日、毎日牛舎に行っているうちに牛も私のことを覚えてくれたらしく、簡単に捕まえられるようになりました。少しずつということ聞いてくれるようになった時はとても嬉しかったです。

共進会では牛の頭を上げて歩くのでその練習をするために1日1時間くらい頭を高く上げて柱につないで、終わったら共進会をイメージしながら引っ張りました。毎日これを繰り返しました。毛刈りをするのも初めてだったし、毛刈りをするバリカンを使うのも初めてで刈り残しがあったり、うまく刈れませんでした。先輩からのアドバイスを聞きながら毛刈りの頭数をこなしていくにつれて大変だった毛刈りが楽しくなりました。そして、もっとうまく毛刈りができるようになりたいと思うようになりました。

共進会の日が近づいてきて、自分が引く牛も決まりました。共進会の3日前でした。削蹄をした時です。一カ所深く切ってしまいました。牛は足を引きずりしっかり歩くことができなくなったのです。結局、そのまま治らなかったので、当日やむを得ず欠場することになりとても残念な気持ちになりました。

沈んだ気持ちの状態、共進会当日を迎えました。朝3時から牛洗いをして荷物や出品牛をトラックに積んで私もトラックに乗り共進会場へ向かいました。雨が降っていて、会場に着いてすぐブルーシートを張ったり、ワラを敷いたりしました。それからトップラインを立てるために、手伝いをしました。今回の共進会では、牛をリードすることはできなかったため手伝いや審査している牛を見ていました。友達がショーリングで牛をリードしている姿を見ていたらすごく羨ましくてリングの外で見ている自分が嫌になりました。2年生になってからほぼ毎朝1人で牛舎に行き牛洗いや調教して来たので、どうしても牛をリードしたかったという思いが込み上げてきて、片付けをしている時に悔しくて、悲しくなり涙が出そうになりました。しかし、ここで泣いたらダメだと思い「次の共進会で頑張るぞ」と自分自身に言い聞かせました。今回の共進会で盛農の牛が未經産牛最高の名誉賞となりました。

この悔しさを胸に私は次の共進会に向けてこれまで以上に気持ちを込め牛洗いや調教を頑張りました。そして次の共進会では未經産牛最後の部のリードマンを任されました。自分と同じくらいの高さの牛をリードするのは初めてで不安もありましたがとても嬉しくて前の日の夜は眠れませんでした。

そして、本番当日。緊張もありましたが、ゴールドウィンとショーリングへ入りました。審査員が1頭1頭牛を丁寧に見て行きます。ゴールドウィンに「お前ならできる」と心の中で何回も

つぶやきました。しかし練習の時より落ち着きが無くなかなか思うように歩いてくれませんでした。結果は2番目でした。悔しかったけれど、ウィンと一緒に共進会に出られて本当に嬉しく勉強になりました。

9月上旬に葛巻町で共進会が行われました。我が家では牛を出していませんが、先輩の家の牛や他の牧場の牛をリードさせて頂くことができました。その日私は3頭リードすることになりとても緊張しましたが、先輩たちがたくさんアドバイスをしてくれました。ジュニアの部でリードマンコンテストもありました。そのリードマンコンテストでなんと私がベストリードマンに選ばれました。そして、メダルを授与された瞬間、実感が湧いてきて今までやってきたことは無駄じゃなかったんだと心から思いました。あまりの嬉しさに涙が出そうになりました。この共進会ではチャンピオンシップにも出ることができました。この葛巻町の共進会では今までにない経験ができ、とても学ぶことが多かった共進会でした。これまで悔しかったことや大変だったことがたくさんありましたが、この共進会をとおして共進会で活躍したい、葛巻町の酪農の発展に貢献したいと思いました。

私が目指す酪農は第1に、父や母を超えるような経営者になることです。経営規模は今のままで牛1頭1頭の能力を最大限に発揮できるような飼育をしていきます。我が家の牛は全体的に飛節が腫れている牛や肢蹄の弱い牛が多く見られます。そのために、放牧をして適度に運動できるような場所を作って、丈夫で長命連産の牛を作っていきます。

2つ目は、育成牛舎の新築です。現在の育成牛舎は、風通しが悪く、全体的に狭く、バンククリーナーなどもついていないので除糞から運搬までに重労働で、老朽化も激しいのが現状です。私は、牛が快適に住めるような牛舎にしたいと考えています。

3つ目は、共進会への出品です。共進会に出し、牛の改良に力を入れていきます。また、同じ目標をもった人たちとお互いを高めあえると思います。

4つ目は、自然と調和した酪農をすることです。葛巻町は周囲は山に囲まれ、自然豊かな町です。その環境を生かし山に牛を放牧し牛が過ごしやすい環境、ストレスの少ない飼育をめざします。

今年は1月の大雪や震災などでとても大変な経験をしました。このような中でも酪農家の人たちは頑張っています。私も自分の夢に向かって今までの努力と経験を無駄にせず、これからも挑戦していきたいです。卒業後は大学進学を目指しています。大学では高い専門的知識、技術を身につけ将来の夢に向かって頑張ります。これからいくつかの壁があると思いますが生涯牛と共に過ごし、私にとって酪農を「楽農」として目指します。